

平成 29 年木造建築士試験 「設計製図の試験」標準解答例の公表について

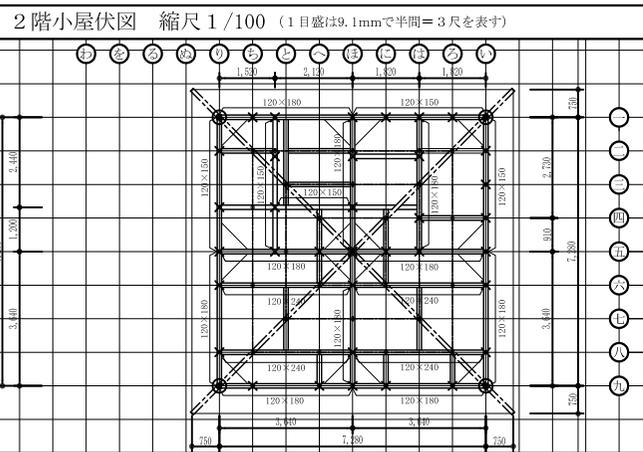
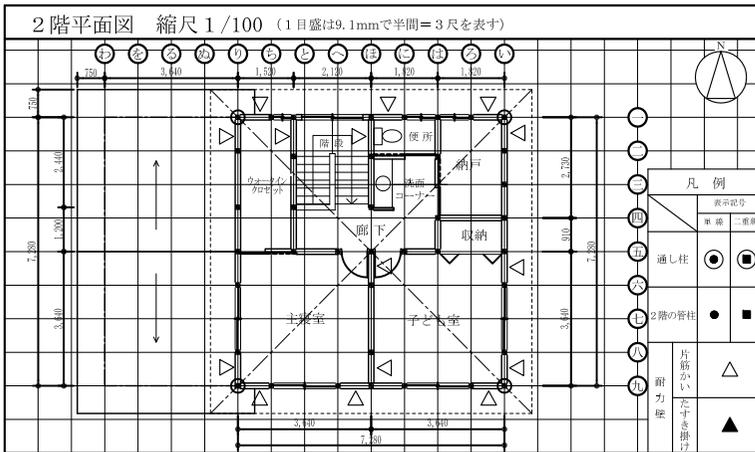
平成 29 年 10 月 8 日（日）に実施されました標記試験の標準解答例（合格水準の標準的な解答例をいう。）を下記のとおり公表します。

木造建築士試験は、建築士法第 13 条及び第 15 条の 6 の規定に基づいて、全国 47 都道府県の指定試験機関である当センター（理事長 鈴木 眞生）が実施しています。

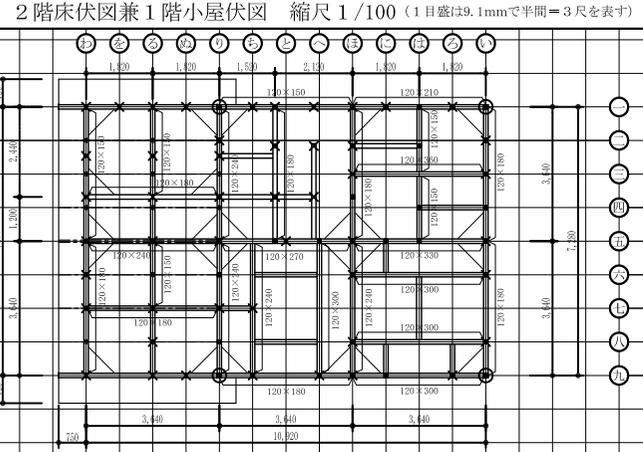
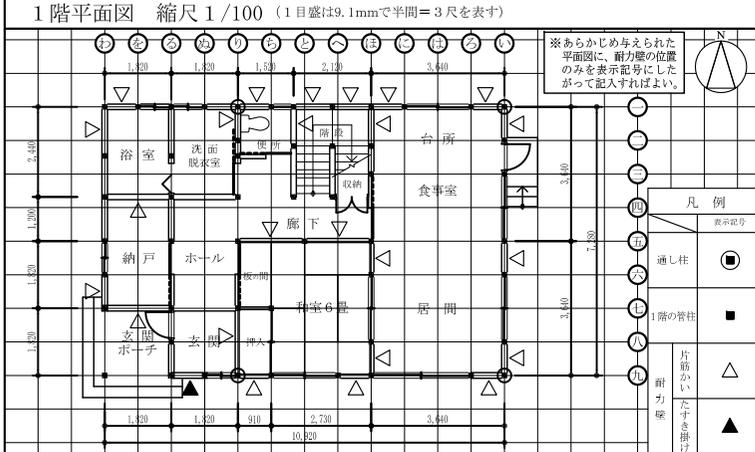
記

1. 標準解答例は、試験の透明性を高めるとともに、建築士を志す者に対して、習得すべき知識及び技能（木造建築士として備えるべき「建築物の設計に必要な基本的かつ総合的な知識及び技能」をいう。）の目安を示す資料として、当センターに設置された試験委員会で作成されたものです。この標準解答例は、当センター本部・支部及び都道府県建築士会の事務所に掲示するとともに、インターネット上の当センターのホームページ（URL <http://www.jaeic.or.jp/>）にも掲載します。なお、標準解答例は、合格水準の標準的な解答例を示すことを意図したものです。
2. 柱杖図^{はしらづえ}及び矩計図については、公表することにより、解答パターンが定型化するなど、適正な試験実施に影響を及ぼすことが想定されることから、公表しておりません。
3. この標準解答例を転載・複製等する場合は、当センターの許諾を得てください。
4. この標準解答例に対する質問・問合せについては、一切お答えいたしません。

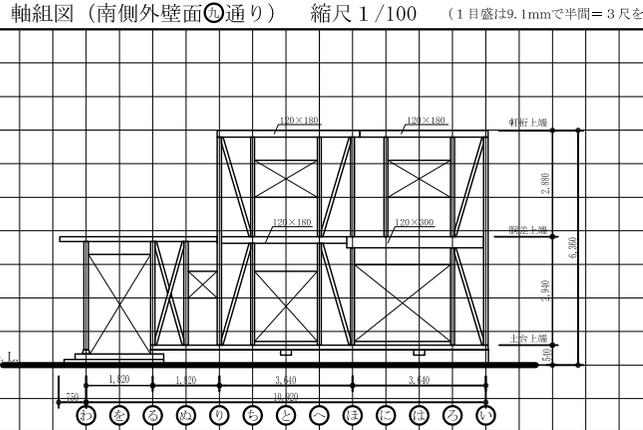
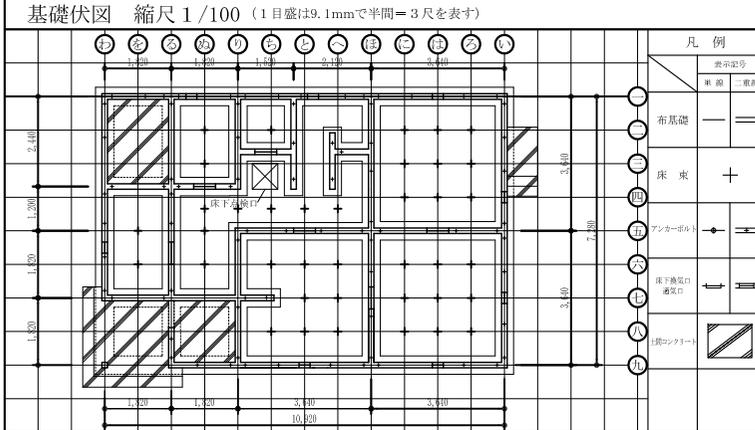
標準解答例



凡例		表示記号	断面寸法 (mm)
通し柱	●	●	120×120
2階の管柱	×	×	120×120
柱	○	○	120×120
筋かい	△	△	120×120
耐力壁	▲	▲	120×120
火打梁	▽	▽	90×90
梁木・小梁梁	▬	▬	90×90
母屋・小梁梁	▬	▬	90×90
屋根住上げ	〓	〓	平瓦葺
屋根勾配	4/10		



凡例		表示記号	断面寸法 (mm)
通し柱	●	●	120×120
1階の管柱	×	×	105×105
2階の管柱	●	●	105×105
柱	○	○	120×120
筋かい	△	△	120×120
耐力壁	▲	▲	120×120
火打梁	▽	▽	90×90
梁木・小梁梁	▬	▬	90×90
母屋・小梁梁	▬	▬	90×90
屋根住上げ	〓	〓	平瓦葺
屋根勾配	4/10		



凡例		表示記号	断面寸法 (mm)
布基礎	▬	▬	120×120
土台	▬	▬	120×120
通し柱	●	●	120×120
筋かい	△	△	45×90
開口部	⊠	⊠	
離平位置	⊥	⊥	

主要構造部材表[木拾い書]

2階床伏図兼1階小屋伏図における明定、2階床梁、桁及び1階小屋梁について、平角材、丸太材の木拾いを行い、下欄に記入すること。なお、正角材は木拾いを行わずによい。

部材	断面寸法 (mm)	定尺長さ (mm)	本数	断面寸法 (mm)	定尺長さ (mm)	本数	断面寸法 (mm)	定尺長さ (mm)	本数
明 梁	120 × 350	4000	1	120 × 270	4000	1	120 × 150	4000	3
2階床梁	120 × 250	4000	1	120 × 240	4000	1	120 × 150	4000	2
桁	120 × 250	4000	1	120 × 210	4000	1			
1階小屋梁	120 × 250	4000	1	120 × 150	4000	1			
	120 × 150	4000	3	120 × 150	3000	2			

- 標準解答例は、試験の透明性を高めるとともに、建築士を志す者に対して、習得すべき知識及び技能（木造建築士として備えるべき「建築物の設計に必要な基本的かつ総合的な知識及び技能」をいう。）の目安を示す資料として、当センターに設置された試験委員会で作成されたものです。この標準解答例は、当センター本部・支部及び都道府県建築士会の事務所に掲示するとともに、インターネット上の当センターのホームページ（URL <http://www.jaiec.or.jp/>）にも掲載します。なお、標準解答例は、合格水準の標準的な解答例を示すことを意図したものです。
- 柱杖図及び矩計図については、公表することにより、解答パターンが定型化するなど、適正な試験実施に影響を及ぼすことが想定されることから、公表しておりません。

個人利用の目的以外には、当センターに無断で転載・複製することを禁じます。